

全国通訳案内士試験
2025 年度合格必勝個別特別相談会
「2025 年度合格のコツ」
(2025 年 7 月 13 日)

ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

●本日の予定

- (1) 自己紹介
- (2) 参加者の皆さんからのご質問に対するご回答
- (3) 基本書の解説
- (4) ハロー花子の動画のナレーションの解説
- (5) 令和 7 年(2025 年)版「観光白書」攻略(切腹資料)の解説
- (6) 質疑応答
- (7) 希望者には、18:00 まで延長可能

●「2025 年度合格のコツ」の要諦

- (1) 各科目とも、「過去問」と「傾向と対策」、「観光白書」(一般常識)、「通訳ガイドテキスト」(実務)が基本。
- (2) 出題者は、各科目とも、平均点を合格基準点に合わせるため、2 割(地理、歴史)～3 割(一般常識、実務)は、「難問」を入れている。
なので、「過去問」の「難問」を見ても、2 割～3 割は、出来なくてもよい、と気軽に考えること。言うまでもなく、取るべきところは、しっかり取らなければいけない。

●ChatGPT 利用法

- (1) 解説が欲しい問題文をコピーする。
- (2) 下記のプロンプトを入力する。

下記の問題の解答を示し、解説をしてください。

2024 年度「一般常識」(問 1)

2022 年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が 279.1 万人となり、全体の 72.8%を占めた。東アジアでは、(ア)が 101.3 万人と主要 22 市場のうちで最も多く、次が(イ)で 33.1 万人、(ウ)が 3 番目で 26.9 万人であった。これら 3 つの国・地域で訪日全体の 47.0%を占めた。空欄ア～ウに当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①(ア)香港(イ)台湾(ウ)韓国
- ②(ア)中国(イ)韓国(ウ)台湾
- ③(ア)韓国(イ)台湾(ウ)香港(正解)
- ④(ア)台湾(イ)中国(ウ)韓国

- (3) (正解)を書いておかないと、(不正解)を(正解)として解説するので注意が必要。
- (4) すると、あなた自身が、ハロー花子と同じ解説を得ることができる。

●Aさん

●「日本地理」

過去問を10年分やってみて、自分の苦手な問題は河川が関わっている問題と気がつきました。有名な河川だけ覚えておいても不十分ですし、あまりにも川が多いので苦戦しています。

(回答)

河川に関する問題は、「日本地理」でも頻出ですが、川の数が多く、範囲も広いので確かに難しい分野です。効果的な対策としては、頻出の河川に絞って「セット」で覚えることです。たとえば、「最上川—山形—芭蕉の句」、「四万十川—高知—沈下橋」、「信濃川—新潟—日本最長」といった形で、川＋都道府県＋観光地や文化的要素を関連付けて学ぶと記憶に残りやすくなります。また、白地図に書き込む学習や、実際の地図アプリで流路をなぞるのも有効です。地形や流域との関連も含めて、理解型の学習を心がければ、文章問題にも対応できるようになります。「つながり」がカギです。

●「日本歴史」

先生が作成して下さった＜傾向と対策＞と過去問に絞って勉強していますが、出題範囲が広く膨大な情報量なのでなかなか記憶が定着できません。

膨大な情報量を効率よく整理してくださっているので、自分が時代の流れや出来事の意味を理解が足りていない為にあと一歩で合格できないのだと感じています。

(回答)

ご自身で課題を的確に把握されていて素晴らしいです。日本歴史は範囲が広く、単なる暗記では限界があります。＜傾向と対策＞と過去問に絞って学習されているのは正しい方針ですが、「時代の流れ」や「出来事の意味」を押さえることが記憶定着の鍵です。おすすめは、1日1テーマごとに「なぜ起きたか」「誰が関わったか」「結果どうなったか」をノートに整理する方法です。また、各時代の特徴を表形式でまとめると、俯瞰的に把握しやすくなります。過去問で出題されたテーマを「ストーリー化」して語れるようにすることで、知識がつながり、応用力も向上します。知識の整理と流れの理解を意識すれば、合格は十分見えてきます。

●Bさん

●「日本歴史」

歴史にあまり興味がなかったので勉強してこなかったため、全てが新しく覚えることが多すぎて覚えられません。

(回答)

(1)「全部覚えようとしなない」

- ・歴史は範囲が広く、全てを覚えるのは非効率です。
- ・試験でよく出る「重要人物」「重要事件」だけに絞りましょう。

(例) 聖徳太子・源頼朝・織田信長・徳川家康 など

(2)「年号より、流れと意味をつかむ」

・単語や年号よりも、「なぜ起きた？何が変わった？」を意識。

たとえば――

・鎌倉幕府成立＝武士が自分たちの政治を始めたこと

・明治維新＝江戸時代が終わり、近代国家への出発点

●「一般常識」

はばが広いので何を集中的に今から勉強すればよいか、迷っています。

(回答)

「一般常識」は範囲が広く、効率的な学習が重要です。まず重点的に取り組むべきは「観光白書(最新版)」と「訪日外国人関連データ」です。特に、訪日外国人旅行者数の推移・出身国・消費傾向・人気観光地などは毎年のように出題されています。また、「インバウンド政策」「文化庁や観光庁の施策」「世界遺産の動向」なども出題頻度が高いため、時事情報もチェックしましょう。次に、「日本の祝日・国際機関・教育制度・自然災害」などの基礎項目を整理するのがおすすめです。＜傾向と対策＞、過去問をもとに「頻出テーマ」をリスト化し、出る可能性が高い項目に絞って学習すれば、得点につながりやすくなります。

●Cさん

●「英語」

2024 年に全国通訳案内士試験を初受験しました。

免除対象となる「TOEIC900 点以上」も有効期限切れだったので、外国語(英語)試験を受験しましたが、結果は 65 点(自己採点)で不合格でした。

敗因は、十分に試験対策をしなかったもので、日本の事象選択問題が全問不正解となったためです。

2025 年英語試験免除を狙い、TOEIC を 2 度受験しましたが、英語力(集中力)低下が原因で 900 点超えできず、今年再受験いたします。

翻訳業に携わっており、和文英訳、英文和訳は得意で、2024 年は全問正解しました。

以降、日本の事象については、「日本の事象英文説明 300 選」を繰り返し学習しましたが、過去問から、出題傾向が掴みづらいため、対策に不安があります。

有効な対策をご教授いただけますと幸いです。

長文問題対策は、日頃から、「Japan Times」等の“Travel”、“Tourism” 関連記事に目を通したりしていますが、過去問題の出典がよく分からずにあります。(2024 年の恐山のイタコの話は面白く「いい題材を選んでる」と関心しましたが。)長文問題対策として、との様な文献を見ればいいでしょうか？

前職で「分かりやすく簡潔に」をモットーに英語表現しており、英検1級で出題される様な難しい英単語や観光関連の英単語が不足しており勉強しております。

(回答)

ご経験から課題を明確に把握されており、方向性は正しいです。まず、日本の事象対策には「日本の事象英文説明 300 選」の暗記だけでなく、「意味を自分の言葉で英語にできるか」が重要です。出題形式は選択肢問題のため、自然な英文と不自然な英文を見分ける力が求められます。過去問を使って、選択肢の比較と背景理解をセットで行うのが有効です。長文読解は、

Niponica(外務省)や JNTO の英語パンフレットがおすすめです。観光・文化・地方の話題が豊富で、出題傾向と一致します。難解な語彙よりも、観光関連語彙と文脈に合った表現の習得がカギです。「読む＋使う」実践型の学習を意識すれば、着実に合格に近づけます。

●「日本地理」

2024 年は、受験を決心・申込したのが一次試験日の2ヶ月前だったので、基本的な知識がなく受けて 56 点でした。以降、2025 年受験に向けて準備しました。

旅地図を利用し、河川・山脈・温泉、名所等の場所を確認していますが、近年は、地図から回答する問題よりも、文章問題が多い様に感じます。その場所に土地勘がある人は有利に思います。有効な対策は、出題されそうな地域を絞ることかと思いますが、対象地域を絞る方法では不安も感じます。

(回答)

「日本地理」では、地図を読む力だけでなく、「観光地や地名の背景知識」を問う文章問題が増加傾向にあります。2025 年度に向けての有効な対策としては、出題頻度の高い地域(北海道・京都・長野・広島・鹿児島など)を優先的に学習し、観光白書や地域の特産・文化・アクセス情報もセットで確認することが有効です。土地勘がない場合でも、「その場所が観光客にとってどのような意味を持つのか」を意識して学べば、文章問題にも対応できます。旅地図を活用した位置確認と、「過去問×観光的視点」での読み取りを組み合わせると、知識が定着しやすくなります。対象地域を絞ることは有効ですが、「観光目線での横断的な理解」も意識しましょう。

●「日本歴史」

2024 年は、受験を決心・申込したのが一次試験日の2ヶ月前だったので、基本的な知識がなく受けて 45 点でした。

2025 年日本歴史試験免除を狙い、日本史検定2級を受験しました。相当時間をかけて勉強したので、日本史の知識は身につけ歴史好きになりましたが、2点足りず不合格でした。

昨年問題は、先生がご指摘いただいております様に、知識の暗記のみならず「語れる歴史」を意識した内容の試験問題で、その後、現地に行き復習しました。

2025 年試験に向け、実際に鎌倉を 2 度、奈良を 1 度、京都を複数回、観光し情報収集をしました。(実家:滋賀、セカンドハウス:横浜の利便性を活かして)

現時点で、文化史に知識不足を感じており、試験までに、この点を強化します。

(回答)

2024 年試験では知識の蓄積が不十分だったとのことですが、日本史検定を通じて基礎が固まり、「語れる歴史」への理解も深まったことは大きな前進です。実際に鎌倉・奈良・京都を訪れ、現地で学ぶ姿勢は、記憶の定着にも非常に効果的です。2025 年試験に向けては、残る弱点である文化史に注力しましょう。特に、各時代の代表的な建築・絵画・文学・宗教を、「なぜその様式が生まれたか」という背景とともに整理することが有効です。暗記ではなく、時代の流れや社会背景と結びつけて理解することで、応用問題にも対応できます。今の学習スタイルを維持すれば、合格は十分に狙えます。

●Dさん

●「中国語」

一次試験は免除扱いであるため、第2次口述試験の準備をするつもりですが、普段中国語を使うことはなく、おそらく、問題対策をゼロから行わないと言葉(中国語)が出てこないと予測しています。なので、もし一次をクリアしたとしても、第2次口述試験が一番のネックであると感じています。

(回答)

一次試験免除とのこと、まずはおめでとうございます。第2次口述試験は実践的な対話力が問われるため、普段中国語を使っていない方にとっては確かに大きな壁です。しかし、早めに準備を始めれば十分対応可能です。まずは、通訳案内士試験の過去の「想定問答」や「通訳問題」の形式を確認し、頻出テーマ(神社仏閣、食文化、交通案内など)を絞って表現を復習しましょう。次に、模擬対話やシャドーイング練習を通じて、口頭表現に慣れてください。録音して自己チェックするのも効果的です。語彙の確認と音声練習を並行して行えば、少しずつ「口が中国語を思い出す」状態になります。焦らず、継続が大切です。

●「日本地理」

「日本地理」に関しては、過去より2回ほどクリアしましたが他の科目が追い付かないため、負の連鎖を繰り返しています。2008年から毎年受けていますので、基礎知識はあるとは思っていますが、なかなか勉強の仕方をつかめていないのかどうか？

そのため、効果的な勉強方法があれば、ぜひお話を伺いたいと存じています。

(回答)

複数回クリアされた実績から、基礎知識は十分に備わっておられると思われます。お悩みのポイントは「勉強法の最適化」です。地理は暗記科目に見えますが、実は「地図的思考」と「観光目線」での理解が鍵です。おすすめは、＜傾向と対策＞で、出題頻度の高いテーマ(温泉・世界遺産・地形・名産など)を分野別に分類し、過去問と観光白書、JNTO 資料を連動させて復習する方法です。例えば「温泉」は、場所＋泉質＋観光名所のセットで学び直すことで、応用問題に対応しやすくなります。また、誤答選択肢のパターンも蓄積しておく、選択肢の消去にも強くなります。理解型・実践型の学習を組み合わせることが、再現性の高い得点力に繋がります。

●「日本歴史」

「日本歴史」に関しても、過去より3回ほどクリアしましたが他の科目が追い付かないため、負の連鎖を繰り返しています。2008年から毎年受けていますので、基礎知識はあるとは思っていますが、なかなか勉強の仕方をつかめていないのかどうか？

そのため、効果的な勉強方法があれば、ぜひお話を伺いたいと存じています。

(回答)

複数回の合格実績から、「日本歴史」の基礎知識は確実にをお持ちだと拝察いたします。課題は「知識の整理」と「応用力の定着」にあるかもしれません。おすすめの学習法は、時代ごとの重要テーマを「因果関係・背景・影響」の視点で整理することです。たとえば、鎌倉幕府の成立を「なぜ起きたか」「誰が関わったか」「どう変わったか」の三段構成でまとめることで、記憶が体

系化されます。また、近年は「語れる歴史」が問われる傾向があるため、過去問の正解・誤答選択肢の意図を考察する訓練も効果的です。得意科目であるからこそ、周辺知識の深掘りと「自分の言葉で説明する練習」が得点力の安定につながります。

●「一般常識」

一般常識に関しては、過去より2回ほどクリアしましたが、たぶんまぐれでクリアしている可能性です。たまたま知っていたことが試験に出た、マークした回答が合っていたとかで、うまく情報を拾えません。

地理や歴史と違い、幅が広く、自分にとっては一番の難所と考えています。

(回答)

「一般常識」は確かに範囲が広く、偶然の正解もあり得るため、対策しにくい科目と感じる方が多いです。ただし、出題傾向には一定のパターンがあります。特に毎年出題されやすいのは、訪日外国人旅行者の動向、観光白書、国際機関、日本の祝日・文化行事、時事的観光政策などです。これらは暗記よりも「最新の観光トピックへの関心」がものを言います。効果的な学習法としては、＜傾向と対策＞に加えて、観光白書の要点まとめを定期的にチェックし、過去問から頻出テーマを絞って知識を整理することが有効です。また、ニュースや観光庁の資料から話題を拾い、情報を“関連付けて覚える”ことで、点の知識を線につなぐことができ、確実な得点力につながります。

●Eさん

●「日本歴史」

毎日どのくらい進めればいいのか。歴史検定2級とテストはどちらが勉強しやすいか。

(回答)

「日本歴史」の学習は、毎日30～60分を目安に、無理なく継続することが効果的です。特に、1日1テーマ(例:飛鳥時代、鎌倉幕府、戦国大名など)に絞り、「背景→出来事→影響」をセットで理解する勉強法がおすすめです。

日本史検定2級は体系的で出題範囲が明確ですが、通訳案内士試験は「観光・文化・説明力」も含むため、暗記中心の検定とは違った対応力が求められます。

したがって、「知識の深さ」を養うには歴検、「実用的な視点と要点整理」は通訳案内士試験の方が向いています。両者の違いを意識しながら、歴検で基礎固め → 通訳案内士試験で応用という流れが最も効率的です。

●「一般常識」

ハローの動画を見て、問題は過去問だけで大丈夫か。

(回答)

ハローの動画、＜傾向と対策＞はとても有用で、試験傾向をつかむには最適です。ただし、「一般常識」は毎年の時事や観光動向が反映されるため、過去問だけではカバーしきれない分野もあるのが現実です。特に「観光白書」「訪日外国人旅行者の動向」「国際会議や文化遺産の最新情報」などは、直近の情報を反映して出題されるため、ニュースや政府機関の発表、観光庁・文化庁の資料にも目を通すことが不可欠です。過去問で出題形式に慣れつつ、ハロ

一の動画＋最新資料(観光白書・統計・文化関係ニュース)で補強するのが最も効果的な学習方法です。過去問は「型をつかむ」ツール、最新情報は「点を取る」武器と考えて使い分けましょう。

●「通訳案内の実務」

ハローの動画を見て、問題は過去問だけで大丈夫か。

(回答)

「通訳案内の実務」は比較的得点しやすい科目ですが、過去問だけでは不十分な年もあります。ハローの＜傾向と対策＞、動画は出題傾向や解説が非常に分かりやすく、基礎固めには最適です。ただし、JNTO の公式テキスト「通訳ガイドテキスト(初版)」を読み込むことが必須です。「通訳案内の実務」は、毎年内容が微妙に変わる可能性があり、特に「ガイドの法的責任」「災害時対応」「受入環境整備」など、テキストの具体的な表現がそのまま出題されることもあります。過去問で形式に慣れつつ、公式テキストの内容を章ごとに要点整理して暗記することが得点の決め手になります。＜傾向と対策＞＋動画＋テキスト＋過去問の四本柱での対策が最も効果的です。

以上

＜日本地理＞対策

(1) 2024 年度＜日本地理＞の出題傾向と対策

<https://youtu.be/W84Lo1I7DdU>

みなさん、こんにちは。ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

今回は、2024 年度全国通訳案内士試験 日本地理 の出題傾向を詳しく分析し、2025 年度の受験対策についてお話したいと思います。

(大問 1)ですが、ここでは新千歳空港から札幌駅までの鉄道の旅を題材に、北海道の観光資源や地理的な特徴を総合的に問う内容でした。支笏湖の「日本で 2 番目の深さ」「透明度の高さ」、エスコンフィールド HOKKAIDO という最新型の野球場、サッポロビール博物館とそのガイドツアー限定のビール、そして創成川といった地名が出題されています。ここで問われているのは、単なる地名の暗記ではなく、それぞれの場所がどんな観光体験を提供しているのかを理解する力です。北海道は食、自然、スポーツ観光が融合した地域なので、それらをつなぐ「物語」をイメージしておくことが大事ですね。2025 年の受験では、観光施設の「最新情報」や「体験型の魅力」に注目するのがおすすめです。

(大問 2)は、山形市とその周辺の観光資源を中心に問われていました。ベニバナの交易と山形の歴史、イギリス・ルネサンス様式の旧県庁舎「文翔館」、御殿堰のリノベーション事例、そして立石寺や蔵王連峰など、地域の歴史と自然が組み合わさった観光資源を問う内容でした。紅花は県花であること、芭蕉の俳句で知られる立石寺、冬の蔵王の樹氷観光といったインバウンドにも人気のテーマがしっかり出ています。受験生の皆さんは、歴史的な背景を持つ施設と自然景観がどのように観光資源として活用されているのか、ストーリーとして語れるようにしておきたいですね。

(大問 3)ですが、栃木県足利市を中心に、渡良瀬川流域の地理、足利学校、織物産業、あしかがフラワーパークの藤の花といった地域資源を問う問題でした。特に、足利学校の「日本最古の学校」という歴史的意義、織物の街としての発展、そしてフラワーパークの藤の花が「世界の夢の旅行先 10 選」に選ばれた背景など、観光と歴史、産業のつながりを理解しておくことが大事です。栃木の出題は地形・産業・文化のトリプルコンボで出ることが多いので、複数の視点を同時に持つ意識が必要ですね。

(大問 4)は、岐阜県郡上市の郡上八幡を題材に、水文化や湧水の利用、町並み保存が問われました。宗祇水が名水百選第 1 号であること、水舟の用途別の役割、郡上おどりの文化的背景など、水と暮らしが密接に関わる町の特徴がテーマです。郡上市のように「生活文化そのものが観光資源になる」というケースは増えているので、自然・文化・生活がどう結びついているかを学ぶことが、合格への大きなヒントになります。

(大問 5)では、三重県の伊勢志摩地域が出題されました。英虞湾やリアス式海岸、志摩観光ホ

テル、おはらい町といった観光地がずらりと登場。特に、賢島や志摩観光ホテルはサミット開催地としても知られ、インバウンドでも注目度が高い場所です。伊勢神宮の参拝文化や街並み保存、おはらい町の石畳の景観など、歴史と現代観光が融合したエリアなので、「何を案内するか」「どこを強調するか」を整理しておくとい良いでしょう。

(大問 6)は、山口県の地理と観光資源を広く問う問題でした。大内氏の歴史と山口市の町並み、瑠璃光寺、秋芳洞、元乃隅神社、青海島といった名所が出題されています。秋芳洞は日本最大規模の鍾乳洞で、その成因や特徴を押さえる必要がありますし、元乃隅神社は写真映えスポットとしてインバウンド需要が高いです。歴史的背景と景観的魅力をセットで語れるようにするのがポイントですね。

(大問 7)は、高知県の観光資源がまとめて出題されました。柏島のダイビングやクロマグロの養殖、ジョン万次郎の史跡、四万十川の清流、桂浜、室戸岬のジオパークと、自然・歴史・文化が網羅されています。特に「海成段丘」などの地形問題は、日本各地のジオパークと絡めて頻出なので、地形分類はしっかり覚えておきましょう。また、ジョン万次郎のエピソードは、幕末史と合わせて学んでおくとい良いでしょう。2024 年度の出題傾向を振り返ると、やはり「地域の魅力を物語として語れる力」が求められていると感じます。地名や施設名の丸暗記ではなく、その背景にある歴史、自然、文化の結びつきを理解し、「どうしてその場所が訪れる価値があるのか」を自分の言葉で語れる力。これこそが、インバウンド対応のプロフェッショナルである通訳案内士としての実力です。ぜひ、これらの視点を意識しながら、次の学習を進めてください。

(2) 2024 年度＜日本地理＞【大問1】の解説

<https://youtu.be/FJslZYbZ1gg>

みなさん、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

今回は、2024 年度全国通訳案内士試験「日本地理」大問1の解説をお届けします。

この問題では、新千歳空港から札幌駅までの鉄道の旅を題材に、北海道の地理的知識と観光資源についての理解が問われました。

一見シンプルな地理の出題に見えますが、実は「ガイドとして語れるか」を問う非常に実践的な内容です。

インバウンド観光がますます多様化するいま、2025 年度の受験者にとっては特に重要な視点が詰まった一問でした。

それでは、列車の進行に沿って、順に見てまいりましょう。

まず、問 1 ですが、南千歳駅と千歳駅の西にある湖についての問題です。

ここでのキーワードは、「田沢湖に次ぐ日本で 2 番目の深さ」と「高い透明度」。この条件に当てはまるのは、③ の支笏湖です。

支笏湖は北海道千歳市にあるカルデラ湖で、最大水深は約 360 メートル。冬でも凍らない湖として知られており、透明度の高さから“支笏ブルー”とも称されます。温泉や遊覧船なども充実していて、国内外の観光客に人気の観光地です。

では、他の選択肢についても詳しく見ていきましょう。

選択肢①の 阿寒湖ですが、道東・釧路市阿寒町に位置し、特別天然記念物マリモの生息地として有名です。ただし、水深は約 45 メートルで、支笏湖のような深さはありません。地理的にも札幌周辺とは離れており、本問の文脈には合致しません。

選択肢②の 大沼は、函館近郊にある自然豊かな湖です。最大水深は約 13 メートルで浅く、規模も小さいため、深さや観光施設の充実度という点では支笏湖に及びません。

選択肢④の 摩周湖 は、神秘的な青い湖として知られ、かつては世界一の透明度とされていました。ですが、水深は約 212 メートルで支笏湖には及ばず、湖畔への立ち入りや遊覧船の就航もなく、観光の実用性という観点でも正解にはなりません。

続いて、問 2 です。

北広島駅付近に見える、プロ野球チームの本拠地についての出題です。正解は、② のエスコンフィールド HOKKAIDO です。

この球場は 2023 年に完成し、日本ハムファイターズの新本拠地となりました。

周辺には「F ビレッジ」という複合施設が整備されており、グルメ、温泉、ショッピングが揃う“体験型スタジアム”として、観光地化が進んでいます。観光ガイドとしても非常に注目すべき新名所です。

選択肢①の エコパスタジアム は、静岡県袋井市にある施設で、ラグビーや J リーグで使用される多目的スタジアムです。北海道とはまったく関係がありません。

選択肢③の 札幌スタジアム は、実在しない施設名です。「札幌」という地名の安心感から選びやすい誤答ですが、試験では「実在するかどうか」も問われています。

選択肢④の 札幌ドーム は、以前まで日本ハムの本拠地でしたが、2023 年に役目を終えました。現在はサッカーやイベントなどに利用されており、「最新情報を追えているか」が問われています。

次に、問 3 です。

苗穂駅の北側にあるレンガ造りの醸造所に関する問題で、正解は③ ビールです。

この施設は「サッポロビール博物館」で、かつてのビール工場を観光施設として活用しています。北海道遺産にも登録されており、ツアーでは工場の歴史を学び、試飲体験も楽しめます。

選択肢①の ウイスキー は、余市町にあるニッカウヰスキーの蒸溜所が有名ですが、苗穂ではありません。

選択肢②の 日本酒 は北海道にも蔵元がありますが、苗穂に日本酒醸造所は存在しません。

選択肢④の ワイン は、北海道では空知地方(岩見沢・三笠など)が産地として知られています。苗穂との関連性はありません。

最後に、問 4 です。

札幌駅に到着する直前、列車が渡る川の名称を問う設問で、正解は② の創成川です。

創成川は、札幌の中心部を南北に流れる都市河川で、街の東西を分ける“基準線”として機能しています。

都市の歴史や区割り、景観整備との関連を語るうえで、観光ガイドには必須の知識です。

選択肢①の 新川 は札幌市北部を流れる人工河川で、中心部とは無関係です。

選択肢③の 月寒川 は豊平区を流れる中小河川で、中心部を通りません。

選択肢④の 真駒内川 は南区に位置しており、こちらも札幌駅周辺とは無関係です。

いかがでしたでしょうか。

今回の大問1は、鉄道という移動手段に沿って観光地や地域資源を紹介し、受験者に「語れる知識」があるかを測る良問でした。

2025 年度を目指す皆さんには、こうした出題から「案内士とは、何をどう話すべきか」を学び取っていただきたいと思います。

例えば、「支笏湖は日本で 2 番目に深い湖です」という事実だけでなく、「凍らない青い湖」としてどんな印象をお客様に伝えることができるのか、という視点が大切であるということです。

知識を「語れる知識」に昇華させること。それこそが、全国通訳案内士にふさわしい力です。

＜日本歴史＞対策

●＜1次セミナー＞「日本歴史の傾向と対策」(第1講)(植山)

<https://youtu.be/dDIp3Vlesdg>

(1) 2025 年度受験対策「日本歴史の傾向と対策」

こんにちは。ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

本日は、全国通訳案内士試験の＜日本歴史＞科目について、過去の出題傾向を踏まえたうえで、2025 年度試験に向けたアドバイスをお届けします。

この動画では、出題頻度の高いテーマや人物、そして今後の傾向を分かりやすく解説いたします。まず、全国通訳案内士試験の＜日本歴史＞科目は、単なる年号や出来事の暗記では対応できません。

重要なのは、「文化財としての意義」や「観光案内との関連性」を意識して学習することです。

出題は、原始・古代から現代に至るまで幅広く、特に文化・宗教・建築といった分野に偏りががあります。

では、実際にどのようなテーマが頻出なのでしょう。

直近の試験で最も注目されたのは、足利義満、平等院鳳凰堂、法隆寺、松尾芭蕉、そして親鸞です。

たとえば、足利義満は 2023 年と 2024 年に連続で出題されました。室町幕府の黄金期を築いた将軍であり、金閣寺の建立や日明貿易の開始など、日本の国際化を語るうえで欠かせない存在です。

続いて平等院鳳凰堂。

10円硬貨にも描かれたこの寺院は、藤原頼通が建立し、平安時代の浄土思想を象徴する建築として重要です。

過去 7 回も出題されたこの場所は、阿弥陀如来像や浄土庭園といった観光ガイドに欠かせない知識も問われる傾向があります。

また、法隆寺も忘れてはなりません。

7 世紀に建立されたこの世界遺産は、現存する最古の木造建築群として、仏教文化の伝来と発展を象徴します。

2023 年にも出題されており、文化財保護の観点や、聖徳太子といった関連人物の知識も求められます。

文芸分野では、松尾芭蕉が注目されています。

『おくのほそ道』に見られる紀行文学としての意義、そして「閑さや岩にしみ入蟬の声」などの代表句は、歴史的価値と日本人の自然観を理解する上で重要です。

俳句文化を通じた日本文化の紹介力も、試験では問われています。

宗教では、親鸞が頻出です。

浄土真宗の開祖として、阿弥陀仏への信仰と平等思想を説いた彼の教えは、日本人の死生観や

倫理観に大きな影響を与えました。

2022 年、2021 年、2017 年と頻繁に登場しており、肖像や仏像に関する出題にも注意が必要です。では、2025 年度に向けて、どのような対策をすべきでしょうか。

まず一つ目は、「歴史的建造物や文化財に関する背景知識の強化」です。

金閣寺、東大寺、仁和寺といった、観光案内で取り上げられる施設については、建立の背景や文化的意義まで押さえましょう。

二つ目は、「宗教・文学・芸術を含めた総合的理解」です。

仏教宗派の違い、平安から江戸時代にかけての文化変遷、そして各時代の代表的な文人たちの作品を繋げて学びましょう。

三つ目は、「地理的連関や視覚資料への対応力を高めること」です。

たとえば「きぬかけの路」に代表されるような、複数の文化財をまとめて出題する形式が増えてきています。

地図を活用しながら、寺社の位置関係や観光ルートを意識した学習が有効です。

最後に、〈日本歴史〉科目では「知識の深さ」と「観光案内の視点」の両立が合格への鍵となります。

単なる年号の暗記にとどまらず、なぜその歴史が現在に語り継がれているのか、どのように外国人に説明できるかという視点で、準備を進めてください。

全国通訳案内士試験は、日本の魅力を世界に伝える力を試される試験です。その最初の一步が、日本の歴史への深い理解です。

皆さんのご健闘を、心より応援しています。

(2) 2024 年度〈日本歴史〉【大問 1】の解説

<https://youtu.be/L0TnFmy9XRc>

みなさん、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

今回は、2024 年度全国通訳案内士試験〈日本歴史〉大問 1 の解説をさせていただきます

大問 1 の舞台は、風光明媚な古都・京都。その北西にある一本の観光道路——それが「きぬかけの路」です。そこには、日本の歴史と文化、そして信仰が幾重にも織り重なっています。

それでは、歴史の舞台を歩きながら、試験の問題を見ていきましょう。

【問 1 | 金閣寺と足利義満】

さて、最初に登場するのは、金閣寺です。

鏡湖池に映る黄金の楼閣、季節によってその表情を変える美の極致——。

この美しい寺院は、もともと公家・西園寺家の山荘でした。それを譲り受け、自らの北山山荘「北山殿」として整えたのが、室町幕府三代将軍・足利義満です。

さて、問題です。

この義満の功績として、正しいものはどれでしょうか？

正解は③です。

「明徳の乱」などを通じて有力大名の力を抑え、室町幕府の最盛期を築きました。

義満は、南北朝の統一を果たし、太政大臣に任ぜられ、公武の頂点に立ちました。まさに、武家政治と公家文化の融合を体現した人物です。

その力と美意識が凝縮されたのが、金閣寺の北山文化なのです。

【問 2 | 衣笠山と宇多天皇、そして菅原道真】

では、「きぬかけの路」の名前の由来をご存じでしょうか？

それは、この道の北にある「衣笠山」にあります。

ある夏の日、宇多天皇が「真夏に雪景色を見たい」と願い、山に白い絹を掛けた——。そんな雅やかな伝説から、この道は「きぬかけの路」と呼ばれるようになりました。

さて、この宇多天皇に重用された人物こそが、菅原道真。

問題は、道真が遣唐使に関して建議した内容ですね。

正解は②。

当時の唐は衰退し、海路も危険な状況。これを見て、道真は遣唐使の廃止を進言しました。894年、その建議は認められ、日本は唐との正式な国交を断ち、独自の文化＝国風文化の形成へと歩み出します。

道真の遠い眼差しが、日本の未来を照らした瞬間でした。

【問 3 | 龍安寺と細川勝元】

さあ、きぬかけの路を南西に進んでまいりますと、静かに佇む禅の寺「龍安寺」が現れます。

石庭——白砂と15の石が織りなす、枯山水の世界。見る者を、無限の想像へと誘います。

この寺を建立したのは、細川勝元。室町幕府の管領を務めた有力大名です。

さて、問題です。

勝元が起こした戦いとは？

正解は③。

応仁の乱の東軍総大将として、山名宗全と対峙したのです。

この戦いは11年にも及び、京都を焼き尽くし、結果として戦国時代への幕を開けました。

あの静かな石庭の裏には、戦乱の記憶が眠っているのです。

【問 4 | 御室仁和寺と皇室】

さらに歩を進めますと、見えてくるのが「仁和寺」です。

春になると境内に咲く「御室桜」が、まるで地面を染め上げるかのように咲き誇ります。

この寺は、真言宗御室派の総本山。完成したのは888年、創建者は第59代・宇多天皇です。退位後、出家してこの寺に入り、初の法皇となりました。

正解は①仁和寺。

仁和の年号からその名をとり、天皇ゆかりの格式高い寺院として、現在も多くの人々の心を惹きつけています。

【問 5 | 仏像様式と文化の変遷】

最後は、仁和寺に伝わる阿弥陀如来坐像についての問題です。
この仏像、制作技法と表情に、ある文化の転換点が見て取れるのです。
問題は、次の 2 つの文化様式が問われました。
前代の仏像様式(a)、そして次代の文化傾向(b)とは？
正解は③。(a)弘仁・貞観文化、(b)国風文化。

この仏像は、一木造という重厚な技法を保ちつつ、面貌は柔らかく優美。つまり、唐風から日本的美意識への転換点に生まれた造形美なのです。
仁和寺に佇むこの仏像は、まさに“文化の架け橋”と言える存在なのですね。

【まとめ | 歴史を歩く旅】

いかがでしたか？
この「きぬかけの路」をめぐる 5 問は、まさに歴史の道そのものでした。

足利義満の栄華、宇多天皇と道真の学問政治、応仁の乱と禅文化、そして仏像に刻まれた時代の息吹—。
通訳案内士として、ただ説明するのではなく、そこに流れる時間や物語を伝えることが大切です。
このような問題は、京都の地を実際に歩いた経験がある方にとっては、まさに“肌感覚”で解ける良問です。歴史を知り、現地を訪れ、感動をもって語れる力を、ぜひ身につけてください。
今回は、最後まで動画をご覧になっていただきましてありがとうございました。

(3) 2024 年度＜日本歴史＞【大問2】の解説

<https://youtu.be/oQekQXE2fEA>

みなさん、こんにちは。
ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。
今回は、2024 年度全国通訳案内士試験「日本歴史」から、大問 2 の解説をお届けします。
テーマは「奈良の大仏」、つまり東大寺に鎮座する盧舎那仏に関わる歴史です。国家安泰を願ったこの大仏は、8 世紀の造立から幾度も焼失と再建を経て、日本の歴史の大きなうねりを映し出しています。
では、順を追って設問を解説していきましょう。

まず、問 1 ですが、聖武天皇が、743 年に「大仏をつくろう」と決意した場所を問う問題です。
この問いの正解は、「近江国の紫香楽宮」です。
当時、疫病や天災が続いており、聖武天皇は仏の力で国を守ろうと考えました。紫香楽宮はそのような思いの中で選ばれた場所だったのです。まさに、仏教によって国を安んじようという思想、「鎮護国家」の象徴的な場所ともいえます。

他の選択肢を見てみましょう。
まず、平城京は確かに奈良時代の首都ですが、大仏造立の詔が出されたのはそこではありませ

ん。難波宮は、飛鳥時代から奈良時代にかけて使われた宮ですが、この詔との関係はありません。恭仁宮も聖武天皇が一時遷都した場所ではありますが、詔が発せられたのは紫香樂宮です。

次に、問 2 ですが、1180 年に大仏が焼失した背景と、その時代を動かしていた人物、平清盛の行動に関する問題です。

正解は、「1159 年の平治の乱で、平清盛が源義朝と藤原信頼の軍を破った」という出来事です。この乱に勝利したことで、平清盛は事実上の政権を掌握し、平家の全盛期を築いていきます。そして、当時、奈良の寺社勢力はこの平家政権に反発していました。その対立が高まり、結果として東大寺を含む南都が戦火に包まれ、大仏が焼失したのです。

他の選択肢について補足します。

「平家納経」は、平清盛の子・重盛が奉納したものであり、直接の関連性は薄いです。

「娘の徳子を鳥羽天皇に嫁がせた」という選択肢ですが、正しくは高倉天皇に嫁いだので、誤りです。

また、「福原京への遷都」は確かに清盛の政策ですが、この設問の焦点である平治の乱とは関連がありません。

次に、問 3 です。

再建された大仏殿や南大門は、中国・宋の影響を色濃く受けていますが、その背景にあったのが、当時の活発な日宋貿易です。

その貿易で日本に輸入され、とりわけ珍重された品とは何だったのでしょうか？

正解は、「磁器」です。中国の景德鎮という都市で焼かれた高品質な磁器は、日本では非常に高価な舶来品として大名や寺社に大切にされました。「景德」の年号にちなんで名付けられた景德鎮の名は、それだけ信頼されていた証ともいえるでしょう。

誤答に目を向けてみると、銅銭も確かに輸入品ではありますが、景德鎮との直接的な関係はありません。

生糸も貿易品の一つでしたが、磁器ほどの象徴性は持ちません。

香料はむしろ東南アジア由来が中心で、景德鎮とは無関係です。

次は、問 4 ですが、再び焼失の歴史に戻ります。1567 年、再建された大仏は、ある戦国武将との戦火によって再び焼かれてしまいました。

その武将とは、誰でしょうか？

正解は、「松永久秀」です。

松永久秀は、戦国時代でも特に個性の強い人物で、時には織田信長に従い、時には反抗するという波乱万丈の生涯を送りました。奈良に拠点を築いた彼は、興福寺や東大寺とも対立し、結果的にこの寺を戦火に巻き込んだのです。

明智光秀は本能寺の変で知られていますが、この事件とは時期が異なります。

荒木村重も信長に背いた人物ではありますが、奈良の大仏焼失とは無関係です。
佐久間信盛は信長の重臣でしたが、衝突の歴史はありません。

最後の問 5 の問題は、豊臣秀吉と「新しい大仏」についてです。

織田信長の死後、実権を握った豊臣秀吉は、東大寺の大仏再建ではなく、新たに京都・東山で大仏を造立しようとした。そのために全国から金属を集めたのですが、その際に出した法令が問われています。

正解は、「刀狩令」です。

1588 年に出されたこの法令は、農民から武器を没収し、平和な社会を築くためのものでしたが、集められた金属は京都の大仏建立にも使われたと記録されています。秀吉にとってこの大仏造立は、国家統一の象徴でもあったのです。

他の選択肢はどうでしょうか。

太閤検地は土地の調査制度であり、大仏造立とは関係ありません。

人掃令は江戸時代の法令であり、時代が違います。

廃仏令は明治維新後に出されたもので、完全に時代が異なります。

最後にこの大問 2 のまとめです。

この大問 2 では、東大寺と奈良の大仏を中心に、日本の宗教と政治の関係が多面的に問われました。

仏教を国家の安定に活用しようとした聖武天皇の発願から、再建を支えた民衆や武士たちの思い、さらには秀吉の国家統治の象徴としての「新しい大仏」まで、その背後には常に、祈りと権力が交錯していたのです。

こうした歴史の流れを理解することで、単なる「正解」を超えて、日本史そのものの奥深さに触れることができるでしょう。

●重要資料

(資料)2023 年度「日本歴史」の出題傾向

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/e7182a13ce73f3ddcdadaea2315af107a>

(資料)2024 年度「日本歴史」の出題傾向と対策

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/9b03739bc2d6c87bdc443784f9bf37a5>

(資料)「日本歴史」2023 年度・2024 年度の出題傾向比較と 2025 年度対策

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/6270f7df8618f5191d45709455f24f48>

(資料)「仁和寺」が「日本歴史」に 6 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/fb4fcc7bd36fd64e64680ef614d62b64>

(資料)「足利義満」が「日本歴史」に 6 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/3ec450c2f648ee3ce13d3c99bfa3a8b1>

(資料)「松尾芭蕉」が「日本歴史」に 7 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/1cadcf2be0d77f46d9a6b4720b745c32>

(資料)「親鸞」が「日本歴史」に 7 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/6fe6b4d5e8875d4a252bd6976b0e452d>

(資料)「法隆寺」が「日本歴史」に 6 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/483089b1327020c566267b6f06c5e081>

(資料)「宇治平等院(鳳凰堂)」が「日本歴史」に 7 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/2dbe70e8e549e2d7693ffeb5f6a28d5b>

(1) 2024 年度＜一般常識＞の問題解説(その1)

<https://youtu.be/BraZRGg5P3g>

みなさん、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

さて、今回は、2024 年度全国通訳案内士試験 一般常識 その 1 の解説をさせていただきたいと思います。

さっそくですが、まず、最初の問 1 からみていきましょう。

この問題では、2022 年の国、地域別の訪日外国人旅行者数について問われましたが、訪日外国人旅行者数に関する問題は、一般常識の問題では、定番中の定番でして、近年では、2023 年度 1 番、2022 年度 2 番、2021 年度 1 番、2019 年度 1 番、2018 年度 1 番、2017 年度 1 番と、ほとんど毎年出題されています。

また、いずれの年も、出典は、観光白書でして、この 1 番の問題文は、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 8 ページの文章と全く同じ文章でした。

2024 年度の試験ガイドラインには、試験実施年度の前年度に発行された観光白書などから出題する、とありましたので、まさに、その通りの出題であった、ということです。

近年、観光白書からは、試験実施年度のものからの出題がほとんどでしたが、このように、前年度に発行された観光白書からも出題されることがありますので、2025 年度に受験する受験者は、昨年度、2024 年度版の観光白書も確認しておく必要がある、ということです。

なお、当該年度の観光白書は、例年、6 月中旬に発行されますので、2025 年度の受験者は、このことをよく注意しておいてください。

さて、問 1 の正解は、選択肢③の「韓国」「台湾」「香港」となりますが、その背景について考察していきましょう。

韓国は、地理的な近さ、航空便の回復の早さ、そして何より韓国の若者の間での日本旅行ブームが背景にあります。

さらに、韓国からの訪日客はリピーター率が高く、地方への旅行も増加傾向にあることが特徴です。

台湾も親日感情が強い国で、訪日回数の多さ、特に地方観光への関心の高さがポイントです。

香港からの訪日客は、短期滞在型やビジネス需要が高く、消費単価が高いことが知られています。

一方、誤答として選ばれやすい中国は、2022 年当時、ゼロコロナ政策で出国制限が厳しかったため、訪日客数が大幅に減少していました。

このような背景をきちんと押さえておくことが、問 1 のような問題に対処する上でとても重要であることが分かります。

それでは、次に、問 2 の問題を見ていきましょう。

問 2 は、訪日外国人の旅行消費額の内訳を問う問題でしたが、これも、定番中の定番問題でして、近年では、2022 年度 1 番、2020 年度 3 番、2019 年度 3 番、2018 年度 2 番、2017 年度 3 番と出題されています。

また、この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 11 ページからの出題でした。

正解は、選択肢②の「宿泊費」「買物代」「飲食費」ですが、その背景を見ていきましょう。

まず、宿泊費が最も大きな割合を占めている理由としては、円安による長期滞在者の増加、高価格帯のホテルや温泉宿の利用、さらには地方での体験型宿泊の人气が挙げられます。

買物代が次に多いのは、日本製品の品質の良さが背景にあります。

特に医薬品、化粧品、電化製品、アニメグッズなど、日本でしか手に入らない商品が人気です。さらに免税制度の充実も追い風となっています。

飲食費は、日本食への関心の高さや、地方の郷土料理を求める旅の増加が影響しています。

誤答には「娯楽サービス費」や「交通費」が含まれていましたが、これらの項目は割合が低いため、選んでしまうと訪日客の消費傾向を正確に把握していないと見なされてしまいます。

次に、問 3 です。

2022 年の延べ宿泊者数の地方別ランキングについて問われた問題でしたが、宿泊者数に関する問題は、近年では、2023 年度 3 番、2020 年度 3 番、2016 年度 3 番に出題されていますので、注意が必要です。

この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 24 ページからの出題でした。

正解は、選択肢②の「関東」「近畿」「中部」です。

関東は、東京という国際的な都市を擁し、成田、羽田という 2 つの大空港があるため、ビジネス・観光両方で圧倒的な需要があります。

近畿は京都・大阪・奈良といった歴史と文化の宝庫であり、訪日客にとって定番の観光地です。

中部は富士山、高山、白川郷といった世界遺産や自然景観が豊富で、名古屋を中心とした都市圏の強さも見逃せません。

一方で、北海道や沖縄は人気の観光地ではありますが、宿泊者数全体では三大都市圏に及ばないという事実を理解しておくことが重要です。

続いて、問 4 です。

観光関連産業の現状について問われた問題でした。

この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 20 ページからの出題でした。

正解は、④の「2022 年 10、12 月期に宿泊業の営業利益が黒字転換した」という内容です。

ここで大切なのは、「営業利益」と「経常利益」の違いを理解することです。

営業利益は本業の儲けであり、宿泊業の回復が本格化したことを示しています。

誤答には「人手不足が解消された」とありましたが、実際には観光業界の人手不足は深刻な課題として今も続いています。

この問題を通じて、数字の裏にある現場の課題や状況も理解する姿勢が求められます。

次は、問 5 です。

持続可能な観光地域「ベストツーリズムビレッジ」に関する問題で、正解は、①の「北海道美瑛町」「宮城県奥松島」「長野県白馬村」「岐阜県白川村」の 4 地域でした。

これらの地域は、自然景観や文化遺産を守りながら、地域の魅力を持続的に活かす観光モデルを実践しています。

特に白川村は、合掌造りの集落が世界遺産にも登録されており、伝統的な暮らしと観光を両立させている好例です。ガイドとしては、地域の魅力だけでなく、持続可能性への取り組みも一緒に伝えられると良いですね。

「ベストツーリズムビレッジ」に関する出題は、今回が初めてでしたが、今後も、出題が予想されますので、受験者の皆さんは、理解を深めておいてください。

では、次の問題、問 6 に移りましょう。

この問題では、出入国審査に関する最新の取り組みについて問われました。

この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 106 ページの「CIQ 体制の強化による更なる円滑かつ厳格な出入国審査体制の整備・強化」からの出題でした。

正解は、③の「自動化ゲートの対象拡大と顔認証ゲートの活用」です。

顔認証ゲートは、パスポートの IC チップ情報と照合して本人確認を行う仕組みで、出入国審査の迅速化に大きく貢献しています。

これにより、空港での長い行列を避けられるようになり、特に訪日客からは「便利だ」「安心感がある」と好評です。

誤答には「クレジットカードで入国審査ができる」や「中国でのプレクリアランス導入」といった現実には存在しない制度が含まれていました。

この問題から学べるのは、出入国手続きの効率化が観光業にとって重要なテーマであること、そして最新の制度を正しく把握しておく必要性です。観光ガイドとしても、空港でのスムーズな流れを案内できると、安心感を提供できますね。

(2) 2024 年度＜一般常識＞の問題解説(その 2)

<https://youtu.be/C1KH8bmSqGM>

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

さて、今回は、2024 年度全国通訳案内士試験＜一般常識＞(その 2)の解説をさせていただきますと思います。

さっそくですが、今回は、＜一般常識＞(その 1)の続きとしまして、問 7 の問題からみていきましょう。問 7 は、日本の月面探査成功に関する問題ですが、正解は「JAXA」と「SLIM」です。JAXA は日本の宇宙航空研究開発機構であり、SLIM は「ピンポイント着陸」を目指した月面探査機の名前です。2024 年に世界で 5 番目の月面着陸を達成したことで、日本の宇宙開発技術は国際的にも高く評価されています。

誤答には「H3」や「H-IIA」というロケットの名称がありましたが、これは打ち上げロケットの名前であり、着陸機の名前ではありません。また「ISAS」や「NASDA」は過去の組織名や他の部署名であり、正確な知識が必要です。「JAXA」と「SLIM」は、今回、初めての出題でしたが、宇宙開発な

どの先端技術についても、日ごろから関心を持っていただきたいと思います。次に進みましょう。

問 8 は、日本の労使交渉に関する問題でした。正解は、まる 2 の「春闘」と「ベースアップ」です。春闘とは、毎年春に行われる賃金引き上げなどの労使交渉のことで、日本独自の労働文化の一つです。そして「ベースアップ」、略して「ベア」とは、基本給そのものを底上げすることを意味します。これに対し、「定期昇給」は年齢や勤続年数に応じて上がる部分であり、性質が異なります。誤答には「ペイアップ」や「全面スト」という選択肢がありましたが、「ペイアップ」は和製英語で正確な意味を持たず、「全面スト」は春闘の手段の一つにすぎません。春闘は、賃金交渉の仕組みを学ぶだけでなく、日本の労働文化や働き方の特徴を理解する上で非常に大切なテーマです。最近、企業は、賞与を廃止して、給与に組み込む動きが増えています。これは、企業が賞与の支給に変動やリスクを伴うことを避け、従業員の給与を安定させ、経営の安定化を図る目的で行われていますが、このような新しい傾向にも注意が必要です。

次に、問 9 に進みます。福島第一原発の処理水に関する問題で、正解は、まる 3 の「IAEA の包括報告書で安全性が確認された」という内容でした。IAEA とは国際原子力機関であり、2023 年 7 月に発表された包括報告書で、福島処理水の放出計画が国際的な安全基準に合致していることが確認されました。トリチウムは放射性の水素の一種で、化学的性質上、水と分離できないため、ALPS、即ち、多核種除去設備で他の放射性物質を取り除いた後、トリチウムだけが残ります。そのため、トリチウムは「希釈して放出」が国際的な基準となっています。誤答には「トリチウムは簡単に取り除ける」といった誤解が含まれていましたが、これは科学的に誤りです。この問題は、放射線や環境リスクの基礎知識、さらに風評被害対策としての説明力を身につける必要性を教えてください。

次は、問 10 です。COP28 に関する問題で、正解は、まる 4 の「段階的な廃止には触れず、脱却を進めると合意した」という内容です。COP28 では、化石燃料の取り扱いが大きな焦点となりました。先進国は「完全廃止」を求めた一方、産油国は「段階的な廃止」にも強い抵抗を示し、最終的には「脱却を進める」という表現に落ち着きました。この妥協の背景には、各国の経済事情やエネルギー依存の現実があるのです。誤答には「G20 代表のみが出席する」という事実と反する記述や、「カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト」という存在しない取り組みが含まれていました。気候変動問題は、持続可能な観光の未来にも関わる大きなテーマですので、最新情報のアップデートを習慣にしましょう。

さて、次は問 11 です。七五三に関する問題で、正解は、まる 4 の「髪置」「帯解」「袴着」という 3 つの儀式に由来するという内容です。七五三は、古くから子どもの成長を祝う行事であり、数え年の 3 歳で「髪置」、5 歳で「袴着」、7 歳で「帯解」を行うという、平安時代の宮廷儀礼に由来しています。誤答には「徳川綱吉の息子の健康祈願に由来する」という俗説が含まれていましたが、これは一部のエピソードであって歴史的根拠に乏しいものです。日本文化を学ぶ上で、伝統行事の本来の意味や由来を正確に理解して説明できることは、ガイドとしての信頼感にもつながります。「日本の事象英文説明 300 選」が、一般常識の解答に役に立つこともあるのです。

次に、問 12 です。日本の城郭に関する問題で、正解は、まる 2 の「大阪城は国宝五城に含まれない」という内容でした。国宝に指定されているのは、姫路城、松本城、犬山城、彦根城、松江城の 5 つです。大阪城は確かに有名で、観光名所としての人気は高いものの、現在の天守は昭和期に再建された鉄筋コンクリート製であり、国宝には指定されていません。この問題は、文化財の指定基準や、歴史的建造物の価値を正しく理解する大切さを教えてください。

続いて、問 13 です。日本の祭りに関する問題で、正解は、まる 2 の「三社祭」です。三社祭は東京都台東区で 5 月中旬に開催され、勇壮な神輿渡御で知られています。誤答には、長崎くんちを「朝鮮半島の影響が強い」とするものがありましたが、実際には中国文化の影響が大きい祭りです。また、郡上おどりの開催時期を「春」としたのも誤りで、郡上おどりは夏の盆踊りとして有名です。祭りの背景や時期、地域性を正確に理解して説明できると、外国人観光客へのガイド力が高まりますね。ちなみに、日本三大祭は、京都の「祇園祭」、大阪の「天神祭」、東京の「神田まつり」であり、京都三大祭は、春の「葵祭」、夏の「祇園祭」、秋の「時代祭」を指します。

次は、問 14 です。大相撲に関する問題で、正解は、まる 4 の「関取とは十両以上の力士を指す」という内容でした。誤答には「横綱から前頭までの総称」という説明がありましたが、これは誤りです。関取は、力士の中でも幕内と十両の地位にある者を指し、幕下以下は含まれません。相撲は、日本の国技であり、大相撲に関しては、過去に、2013 年度、2017 年度、2018 年度にも出題されていますので、受験者は、日本文化としての相撲を正しく理解し、外国人にも分かりやすく説明できるようにしましょう。

次に、問 15 です。日本の近代建築に関する問題で、正解は、まる 1 の「旧岩崎家住宅」です。旧岩崎家住宅は、明治時代に三菱財閥の岩崎家によって建てられ、ジョサイア・コンドル設計の洋館、撞球室、和館が現存しています。国の重要文化財にも指定されています。誤答には「旧前田家本邸」や「小笠原伯爵邸」などがありましたが、これらも重要な建物ですが、問題文の条件に合致しません。建築の意匠や背景を理解し、文化財の価値を伝えられると良いですね。

そして最後、問 16 です。2026 年のアジア競技大会で実施される競技について問われた問題で、正解は、まる 2 の「サーフィン」です。スポーツ観光の視点では、サーフィンは自然環境を活かした観光資源であり、今後の注目分野です。こうした最新のトピックにも関心を持つことが、ガイドとしての引き出しを広げる鍵になります。なお、スポーツに関しては、オリンピック関連問題が、2013 年度、2014 年度、2015 年度、2017 年度、2019 年度、2020 年度に出題されており、また、ラグビーワールドカップ関連問題が、2019 年度、2021 年度に出題されており、FIFA ワールドカップ関連問題が、2018 年度に出題されていますので、普段からスポーツ関係のニュースには注意しておく必要があります。

●重要資料

令和 7 年(2025 年)「観光白書」から出題が予想される箇所

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/3c11540533454bad9794af6bfe11c0cf>

令和 7 年(2025 年)「観光白書」から出題が予想される箇所(切腹資料)

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/3c11540533454bad9794af6bfe11c0cf>

2025 年版「観光白書」の特徴

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/e4f30d1b7da1197c83a0ed9589ee7e4d>

2025 年度「観光白書」で狙われやすいポイント(予想)

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/a1d721dfae417b70dbf8ed3f5abf80fc>

2025 年度「一般常識」厳選予想問題 10 題

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/8afd7875e7044847db0873bd7dec25ad>

2024 年度<一般常識>の問 11 の出典

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/dfc0999adf85ba834712ace2e6246984>

2024 年度<一般常識>の問 5 の出典(観光庁ホームページ)

https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/jizokukano_taisei/torikumi/btv.html

＜通訳案内の実務＞対策

- (1) 2025 年度＜1次セミナー＞＜通訳案内の実務の傾向と対策＞(第1講)(植山)

<https://youtu.be/KTtmkRrmYLI>

- (2) 2025 年度＜1次セミナー＞＜通訳案内の実務の傾向と対策＞(第2講)(植山)

https://youtu.be/4HiZXO_m6AU

- (3) 「通訳ガイドテキスト(初版)」について

<https://youtu.be/kuC4E-ZujI>

みなさま、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーの花子でございます。

本日は、全国通訳案内士試験をご検討中の皆さま、そして、日々通訳ガイドとしてご活躍されている皆さまにとって、大変重要なお知らせがございます。

このたび、観光庁より新たな公式教材、『通訳ガイドテキスト・初版』が発行されました。

まずは、なぜこのテキストが改訂されたのか。

背景からご説明いたします。

このテキストは、これまで「観光庁研修テキスト」として用いられていたものを、現代の観光ニーズに即した内容へと、大幅に刷新したものです。

名称も新たに——「通訳ガイドテキスト・初版」と改められ、ガイドの専門性と、実務能力の向上を支える、新しい基準書として位置づけられています。

では、改訂のポイントをご紹介します。

主な変更点は、3つございます。

まず一つ目は、名称の変更です。

これまでの「研修テキスト」から、「通訳ガイドテキスト・初版」へと、正式に名称が変わりました。

この変更には、国家資格である通訳案内士だけでなく、広く通訳ガイド業に従事する皆さま全体を支える教材である、という観光庁の強い思いが込められております。

二つ目は、最新の観光情勢の反映です。

例えば——

高付加価値旅行者への対応、多様な文化的背景を持つお客様とのコミュニケーション方法、

そして災害時や緊急対応など、現場で役立つトピックが新たに加わりました。
まさに今求められる知識と対応力を、しっかりと学べる構成となっております。

そして三つ目。

このテキストは、2025 年度から、全国通訳案内士試験「通訳案内の実務」科目の、公式な試験範囲となります。

つまり、受験者の皆さまにとっては、必ずおさえておくべき、国家試験対応の公式教材なのです。

補足として——この「通訳ガイドテキスト・初版」は、観光庁が定める登録研修機関向けの教材基準にも、正式に適合しています。

また、試験実施を担うJNTO——日本政府観光局の公式サイトでも、本テキストの使用が明記されています。

最後に。

通訳ガイドとは、単に観光地を案内する職業ではありません。日本と世界とをつなぐ、知識と誇りを携えた“架け橋”です。

この新しいテキストが、その役割を果たす皆さまの、確かな羅針盤となりますように。

ぜひご一読のうえ、学びにお役立てください。

以上